

1 . 木質廃材・廃棄物を利用した木質材料の開発（第3報）

予算区分： 県 単
担当科名： 木材加工科

研究期間： 平成 10～15 年度
担当者名： 鈴木 修治

. 研究目的

地球規模での CO₂ 対策や廃棄物処理に伴うダイオキシン対策など、廃棄物対策と資源リサイクルの両面からの対応が木質材料についても求められている。

廃棄物の特性を生かし、使用後の廃棄物処理にも対応できる製品開発を目的として、本年度は、古紙と木質廃材（主に樹皮）の断熱（保温）材の開発を目的とする

. 断熱材の製造方法

シュレッダーで裁断した古紙と樹皮を、水を介してよく混合し、底面を網にした約 30×30cm の成形枠に入れ、水分を切り、型から外して上下面を拘束し、一定荷重がかかるようして、100 で 48 時間乾燥した。

. 配合割合

古紙：樹皮の配合割合を重量比で、1：0、1：2、1：3 の 3 条件で製造し、ボードの諸性能を測定した。

. 結果と課題

樹皮の配合比を高くすることで、成形枠に投入の際の水切りが比較的しやすいことが解った。

また、試作したボードの諸性質の表 1 に示す。

配合比（古紙：樹皮）	1：0	1：2	1：3
ボード密度（g/cm ³ ）	0.19	0.17	0.14



写真 1 ボードの断面（配合比 = 1：2）